

第2回実施報告

<p>テーマ</p>	<p>「LGBTを学ぶ」 ～誰もが自分らしく生きるために～</p>	
<p>日時</p>	<p>平成28年8月26日（金曜日） 午後2時から午後4時まで</p>	
<p>場所</p>	<p>尼崎市立地域総合センター水堂</p>	
<p>講師</p>	<p>（特活）LGBTの家族と友人をつなぐ会 いわたに てるこ さん</p>	
<p>参加者</p>	<p>50名（内訳 登録者8人、市民他42人）</p>	
<p>事業の目的</p>	<p>多様な性的マイノリティの存在やカミングアウトされた時の思いなどの実体験を聞くことによって、LGBTについて、より身近な問題として捉えると共に、人権意識を高めることを目的に実施しました。</p>	
<p>実施内容</p>	<p>講話に入る前に、まず子供向けに作成されたLGBTについてのDVDを視聴した後、講師からの講話がありました。初めに、LGBTとは、L＝レズビアン（女性の同性愛者）、G＝ゲイ（男性の同性愛者）、B＝バイセクシュアル（両性愛者）、T＝トランスジェンダー（戸籍上の性別と自認する性別が違う）であること、セクシュアリティの4指標として、こころの性（性の自己認識）、表現する性（性表現／性役割）、からだの性（生物学的性）、好きになる性（性的指向）があり、それぞれがまじりあい、影響しあいながら、多種多様な形で、また途中で変化する場合もあるというお話がありました。LGBTの日本での人口比率は、ある調査によると7.6%で13人に1人はLGBTの人がいるということで、身近な問題であるということ、日本では2003年に内容に問題点はあるが、「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」があることなどを話されました。そして、ご自分の娘さんが20歳位になってカミングアウトされてからの思いや悩みなどの実体験のお話があり、受け入れていたのは、セクシャル・マイノリティに関する教育訓練や書籍に触れる機会があったこと、また、夫婦、家族、友人や知人など、正直に話せる場が複数あり、そこで否定的なことを言われた経験がほとんどなかったとのお話がありました。</p>	

	<p>昨年4月に文科省が「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」という通知を全国の学校に通知し、同性愛などを含めた性的少数者（LGBT）の子ども全般への対応を要請したとのことで、学校での対応も重要であり、LGBTを正しく理解するための普及活動が今後とも必要であるとのお話がありました。</p>
参加者からの感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ LGBTについて、生の声や文科省などの対応なども聴けて参考になり、心強くなりました。 ・ 自分の周りにいる人に、これからも配慮していこうと思います。 ・ また機会があれば参加したいと思いました。映像があってわかりやすかったです。 ・ 実際の体験に基づいてお話されているので、具体的でわかりやすかった。 ・ 人権について考えるきっかけ、理解の深まりがありました。
成果と課題	<p>近年、テレビや新聞等で取り上げられているLGBTについて、具体的な話を聞く機会が少なかったが、実体験のお話などを通じて、意識関心が高まったことが成果としてあげられる。また、学校の先生方も参加されていたので、アンケートでも今後の子どもたちへの指導に大変参考になったとの声が多かった。</p>
その他	